

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

学校名 豊島区立西池袋中学校
校長名 佐藤 高彦

学校の教育目標
人間尊重の精神を基調に、次代の日本と国際社会を担うことのできる、たくましい、心豊かな生徒の育成を目指し、次の目標を定める。 ○ 自ら学び、正しく判断できる人になろう。 ○ 責任を重んじ、思いやりのある人になろう。 ○ 心身ともに健康で、強い意志で生きる人になろう。
学力に関する目指す生徒像
生涯にわたって学ぼうとする意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付け、夢や目標をもち、主体的に学習に取り組むことのできる生徒。
授業改善推進プランの全体像
<p>「誰一人取り残さない教育」の実践</p> <pre>graph TD; A[わかる授業] --- B[学びの保障]; A --- C[CBTを活用した授業改善]; A --- D[主体的に学習に取り組む指導法の工夫]; A --- E[個に応じた指導の充実]; A --- F[ユニバーサルデザイン化された授業]; A --- G[教科横断的な授業実践]; A --- H[図書館等の活用];</pre>

令和5年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力		
<p>・対話や議論を通じて、問題解決をする力 ・必要な情報を取捨選択する力</p> <p>・伝える相手や状況に応じて、適切な表現をする力 ・語句の知識の定着</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	漢字の読み書きが、基礎学力の定着に差がある。また、自分の考えをまとめて、それを文章にすることに苦手意識をもつ生徒が多い。同様に自分の考えを発言することが苦手な生徒が多い。	漢字や言語事項については、授業毎に、確認・定着を図るため、小テストやプリント・ワークを使い反復練習を行う。書くことへの苦手意識をなくすため、発表の場を増やし、評価し合うグループワークも取り入れる。発言に抵抗感のある生徒に対して、CBT等を活用して機会を増やし、自信をつける。
2年	漢字の書き等の基礎学力の定着に差がある。また、相手や状況に応じて言葉を選び、考えを述べるのが苦手な生徒が多い。	CBT等を活用し、基礎・基本の定着を確認しながら授業に臨む。また、視野を広げ、考えを深めるために意見交換やグループワークを取り入れる。また、課題について調べた情報を元に自分の意見を述べる機会を増やす。
3年	学力調査の結果では、知識の観点では漢字の読みや敬語について定着に偏りがあることがわかる。また、説明的な文章の読解やグラフの読み取りについて課題が見られた。	漢字や言語事項などの基本的な知識の定着を図るために、授業の中でタブレット等を活用しながら反復練習を行う。また、グラフの読み取り等、様々な見方ができる課題についての話し合いの機会を増やす。

2 社会科

目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力		
<p>知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付けた上で、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意義の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	<p>授業に積極的に取り組む生徒が多く、プレゼンテーションなどの発表についても工夫された内容のものを作成できる生徒が多い。</p> <p>基本的な知識の定着についてはまだ弱く、共同的な学習を行う際の障壁となっている。</p>	<p>CBTなどの活用を視野に入れつつ、基礎的な知識力の向上を図る。</p> <p>定着した知識を活用して様々な資料から自らの考えを導き出す思考力向上の場面を積極的に授業に取り入れる。</p> <p>プレゼンなどの発表の機会を設けることで課題を主体的に解決しようとする態度の育成を図る。</p>
2年	定期考査の結果から基本的な知識の定着ができていない生徒がいる。ま	授業で振り返りを行う質問・課題を行う。CBTの活用も一考する。

	た、個別的には学習に興味関心の高い生徒が多い。自主的に課題を設定し調べまとめることが苦手である。	積極的に参加できない生徒には、グループによる話し合いに参加させることにより、参加を促す。 まとめるだけでなく、発表することにより他者の良い点を学ばせる。
3年	基本的知識が身につけていない生徒がいる一方、興味関心を持ち問題意識を持って自ら進んで学ぼうとしている生徒も一定数いる。 課題について、自らの考えを書くことが苦手な生徒としっかり書くことができる生徒と二分している。	パワーポイント、実物教材、新聞資料等を活用して、興味関心を持ち自ら進んで学ぼうという姿勢を育てる。 基礎的な事柄を定着させるため、まとめテストを単元ごとに行う。 オクリンクを活用し、自分の考えをまとめ、同時に他者の意見を知ることにより、自分の考えをより深めることができるようにする。これをもとにグループ討議を行う。

3 数学科

目指す生徒像を基にした数学科で育成したい資質・能力		
数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。また、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して主体的に考えたり判断したりしようとする態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	学力調査の結果では、全体的に区の平均を下回っている。特に小数・分数の計算や、割合の内容の定着に課題がある。	中学校の計算の授業の中で積極的に小数・分数の計算を取り入れ、基本の確認を何度も行う。割合に関しては、図を用いるなどの工夫をし、考え方の定着を図る。
2年	学力調査の結果では、全ての分野において区の平均を上回っており、概ね学力状況は良好である。ただ、関数分野においては定着にやや課題がある。	関数の基本的な用語をしっかりと確認し、図・式・グラフの関連を意識させるような授業展開を心がける。十分な定着が見られる分野については、数学的な思考・表現を伸ばすように努める。
3年	学力調査の結果では、概ね区の平均を上回っている。特に基本的な計算技能等はよく身に付いている。その一方で確率・統計の分野や証明の内容に課題が見られる。	授業の中で意見交流や問題解決型の学習を多く取り入れることで、数学的な知識を生かして自分の考えを表現する能力を育成する。また、与えられたデータをどのように読み取るかを考察する機会を増やす。

4 理科

目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力	
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則に関連する事象から問題点を見いだして、科学的に探究しようとする態度を育て、その過程で得られた結果を正しく分析したり、考察したりする事を通して科学的な思考力・判断力・表現力を養う。	

学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業には一生懸命取り組む姿勢は見られるが、科学的な思考・計算や重要語句の漢字を覚えることが苦手と感じている生徒が多い。	基本的な知識・技能については漢字練習をしたりワークを用い定着を目指す。C B Tや各単元のまとめ小テストを行うことで、定着に努めていく。
2年	区学力調査等の結果より知識・技能の定着が単元によってバラツキが見られた。また、実験や観察の問題において無回答が一部見られた。さらに、知識や技能を活用した問題に対しての正当率が低い。	C B T や小テスト等の振り返りを繰り返し、定着を自ら確認できるようにし、調整力をつけられるようにする。また、対話型の授業を取り入れ、生徒同士の意見交換から考えを深める場面を設定していく。さらに身のまわりの事象と学習内容の結びつきを考えたり、説明し合ったりする機会を設けていく。
3年	学力調査の結果より、基本的な知識・技能の定着は都の平均を上回っている。しかし、科学的に物事を考え表現することが苦手な生徒が多く、理科を苦手と感じている生徒が多い。 また授業中の様子から、数式や数字の羅列に意味を見いだすことが苦手な生徒も多い。	基本的な知識・技能の定着については現状のようにC B Tや授業内容の小テストを適宜行うことを通して、今後も定着に努めていく。 また、他者がどのような考えをもっているかを聞き、根拠に基づいて考えをまとめる授業を計画的に行い、生徒にフィードバックしていく。 また、特別支援学級との交流及び共同学習も取り入れていく。

5 音楽科

目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力		
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて、生活の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力と生涯にわたって音楽を楽しもうとする意欲の育成		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業に対して興味をもって取り組んでいる。しかし、生活と音楽との結びつきについて深める経験がやや少ない。	世界には様々な音楽があることを確認し、幅広い音楽にふれさせる。そして、音楽活動を楽しみ、生活の中の音楽の意味や役割を考える授業をと取り入れる。
2年	さまざまな楽曲について興味をもって取り組んでいる。しかし、諸要素を知覚・感受し、イメージや感情をもつことを苦手としている生徒が多い。	曲想、音楽の構造、歌詞の内容などに触れながら、自己のイメージや感情を言葉や音楽で表現のできるような探求する授業や協働的な活動を取り入れる。
3年	様々なジャンルの音楽に興味をもって授業に取り組んでいる。しかし、思いや意図を読み取り、工夫して表現することを苦手としている生徒が多い。	自分なりの考えを発表する場を設け、他者との関わりの中から自分なりの音楽の価値の幅を広げ授業を取り入れる。そして、その考えを音で表現できた部分を褒めて自信をもたせる。

6 美術科

【豊島区立西池袋中学校】

目指す生徒像を基にした図画工作科で育成したい資質・能力		
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、豊かに発想し構想を練り、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業では楽しんで作業に取り組んでいるが、一部落ち着きがなく、作業に集中できない生徒もいる。	基礎基本を伸ばし、作業に集中させるため、技法や知識を短い期間で習得しながら制作できる題材を数多く取り組む。個別の声掛けて、ほめてやる気を伸ばす。
2年	やる気もあり、ほとんどの生徒は熱心に取り組んでいる。技術的に自身のない生徒もいる。	個別の声かけや指導と、作品の構想段階でのアドバイスをする。画材や用具の助言も個別でして、成功体験を増やしてやる気を伸ばす。
3年	粘り強く制作に取り組む生徒が多い。良いものを作ろうとするので、作業が遅れる生徒もいる。	構想段階での声かけやアドバイスをして、少しの達成を見逃さず、ほめながら指導する。早めに見通しを持たせて作業に取り組む。

7 保健体育科

目指す生徒像を基にした保健体育科で育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決能力 ・情報活用・発信能力 ・協働的態度 ・多様性を尊重する態度 ・生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する力 ・心身の健康を保持増進する力 		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	多様性を尊重しようとする態度に優れた学年集団である。一方で、情報活用・発信能力には個人差がある。	タブレット端末を活用した調べ学習のみならず、わかりやすく他者に伝え、表現する活動を全生徒について取り組んでいく。
2年	協働的態度に優れている学年集団である。主体性を発揮させる場面設定がこれまで少なく、問題発見・解決能力の育成に課題がある。	運動や健康について、批判的思考力を生かして問いを立て、解決していくようなプロジェクト型の学習に取り組んでいく。
3年	グループ内で出来る人に依存してしまう傾向があり、誰もが当事者意識をもって関わるような協働的態度に課題が認められる。	学び合いのある学習場面を設定し、互いの良さや協働的態度を引き出せるよう、ファシリテーションや指導に取り組んでいく。

8 技術・家庭科

目指す児童像を基にした技術・家庭科での育成したい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業や実習で身に付けた知識・技能を身近な生活と関連づけ、生かすことができる力 ・共同学習を通して問題を発見し、協力して解決していく力 		

学年	実態	具体的な取組
1	関心・意欲が高く、何事にも一生懸命に取り組むことができる。	住む場所に関することや身近にある材料について学び、実生活に関連させて生かす力を身につけさせる。
2	基本的な知識を身につけ、集中して実習に取り組むことができる。	全体の中で意見を言うのが苦手な生徒でも、タブレットPCを活用することで、考えを共有する機会を設ける。また、実習を通して問題解決する能力を育成する。
3	班活動・話し合い活動を積極的に取り組むことができる。知識を応用して、自分の考えを発表したり、表現したりすることが苦手である。	作品の製作を通して、意見を共有する場や話し合い活動を取り入れ、個人だけでなく複数名で問題解決ができるように指導する。

9 外国語科

目指す生徒像を基にした外国語科等で育成したい資質・能力		
身につけた知識や技能を場面に応じて活用し、自ら進んで様々な環境で多様な人とコミュニケーションをとれるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	会話練習や音読練習など、授業内では意欲的に取り組もうとする生徒が多い。一方で基礎基本の定着が不十分で、諦めてしまう生徒もいる。基礎基本の定着を図るとともに自分や身近な人について表現する力を身につけることが課題である。	授業内では単語、基本文、教科書の本文について繰り返し練習を行い、基礎基本の定着を図る。家庭学習として、デジタル教科書を活用して聞くことや読むことを学習させる。ノートに自筆で書く課題を提示する。また授業内外で発表する場面を増やし、自分や身近な人について表現する力を養う。
2年	会話練習や音読練習など、意欲的に取り組む生徒が多いが、基礎的・基本的な知識の定着がまだ不十分知識の定着を図りながら、自分や身近な人に関して表現できる力を高めることが課題である。	知識の定着のために、基本文や教科書の音読練習やドリル等を繰り返しおこない、基礎・基本の定着を図ることを心がけている。デジタル教科書等を利用して、授業の復習を行うように呼びかけ、具体的な方法を伝えて、活用を呼びかけている。
3年	自己表現力を伸ばす目的で Chat 等の会話練習やピクチャーディスクリプションを行っており、意欲的に取り組んでいる。適切な英語で表現する力がまだ不足しているため、基本的な知識を定着させ運用する力を身に付けさせることが課題である。	知識の定着のためのドリル活動や音読練習を繰り返し行い、同じ表現を何度も練習するようにしている。また、復習が中心となるような授業展開をし、毎授業での自己表現の場面を設定している。音読練習の成果を見るためにオクリンクを利用したり、プレゼンやスピーキングテストを実施することで学習の動機付けをしている。

10 特別の教科 道徳

目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力		
<p>思いやりの心や生命の尊さを自覚させ、互いの人権を尊重する道徳性の育成を図る。</p> <p>重点とする内容項目はA「自主、自立、自由と責任」、B「思いやり、感謝」、「友情、信頼」、C「順法精神、公德心」、「よりよい学校生活、集団生活の充実」、D「生命の尊さ」</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	授業には意欲的に取り組み、発言もよくする生徒が多い。積極的な発言ができない生徒もいるが、生徒同士の意見交流やワークシートの記述はできている。	少人数のグループで話し合う活動を取り入れたり、発言はなくても、ワークシートで思いを見とれる工夫をする。また、自分事として捉えられるよう、展開を工夫する。
2年	教材に含まれる道徳的価値に関わる事象を自分事として受け止められる生徒が多い。自分から発言ができない生徒もいるが、ワークシートにしっかり意見は書いている。	意見を言いたくなるような発問づくりを心がけながら、十八番授業の指導案を考える。発言の取り上げ方も工夫する。指導案等の作成で課題を感じる場合は、指導教諭の相談会を利用する。
3年	自分自身・人との関わり・集団や社会に関することに興味をもっている生徒が多い。また、ニュースなどを通して生命や自然に関することに深く考えて生活をしている生徒も多くみられる。	広い視野、多角的・多面的な考えをもたせるために、口頭や紙面の発表を通して、他者との考えと比較させる場面を多く設ける。また、十八番授業の指導案作成時に生徒が意見を伝えたいくなるような発問、道徳的な判断力や実践意欲をもちたいくなるような説話等を考える。

11 総合的な学習の時間

目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力		
<p>インターネットや図書、新聞等のメディアを活用しながら、必要に応じた情報を収集する力を養う。</p> <p>また、その情報を取捨選択し、目的や場に応じて適切に発表する力を育成する。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	「学習の取り組み方・定期考査の受け方」「将来の見通し」「働くことの意義」「職業調べ」「ものづくり体験」を実施し、自らの適性と卒業後の進路について考えることができている。	インターネットを活用し、情報収集し、それをまとめて掲示発表やプレゼンテーションに繋げた。紙面発表を通じて「ていねいに書くこと」やプレゼンテーションを通じて「即興に話すこと」の力を伸ばすようにする。
2年	「自分の人生設計」「職業講話」「上級学校調べ」を実施し、卒業後の進路について考える機会を設けた。インターネットを活用し、情報収集し、それをまとめて掲示発表に繋げた。	インターネット等を活用し、情報を収集する能力はついてきているが、自分で考え、取捨選択することについての指導を継続的におこない、よりよいまとめや発表ができるようにしていく。
3年	「10年後までのキャリアプラン」を作成する中で、卒業後の進路やその先で学びたい上級学校、取得したい資格	インターネット等のメディアを活用し情報収集することはできている。今後は、目的や場に応じて適切に発表する力をより育成していく必要がある。

	<p>などについて考えた。インターネット等を活用し情報を収集し、紙面発表を行った。</p>	<p>特に、場に応じて相手の様子を見ながら適切な言葉で発表をする力を伸ばすため、様々な場で発表する機会を設定する。</p>
--	---	---

1.2 特別活動

<p>目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力</p>		
<p>各教科の学習及び道徳や特別活動の学習を通して、物事の基本的な考え方や学び方を習得する。さらに、『問題解決や探求活動に主体的・創造的に取り組み、自己の生き方について多方面から深く考え、その実現を目指す生徒』を育成する。</p>		
<p>学年</p>	<p>現在の状況</p>	<p>改善のための取組</p>
<p>1年</p>	<p>学級活動や委員会活動・部活動に積極的に取り組み、責任を果たそうとしている。</p>	<p>自主性やリーダーシップが育つように、行事や学級・委員活動などで全ての生徒に役割をもたせていく。また部活動を通してスキルと人間関係を学ばせる。</p>
<p>2年</p>	<p>学級活動や委員会活動に取り組もうとする様子があるものの、他者と協同することや奉仕の気持ちが弱い。</p>	<p>各担当に責任を果たすように教師の方から声かけをしながら、行事や学級・委員会活動などで全ての生徒に役割をもたせた上で、係や委員会を越えて協力できるような取り組みを入れていく。</p>
<p>3年</p>	<p>学級活動や委員会活動に積極的に取り組む生徒が1, 2年生の頃に比べて増えている。自主性や責任感の弱い生徒もいる。</p>	<p>委員会・学級・行事活動において生徒に役割を持たせ、協調性や自主性をさらに伸ばせるよう声かけしながら活動させていく。</p>

1.3 交流及び共同学習の進捗状況

<p>学年</p>	<p>現在の状況</p>	<p>改善のための取組</p>
<p>1年</p>	<p>横浜移動教室の取り組みで交流を行った。共同学習では、実態に合わせて体育・国語などの授業に参加することができた。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。国語では、お勧めの書籍の紹介文を書くことができた。</p>	<p>運動会の全員リレーでは、運動会1ヶ月前のリレー練習の最初に自己紹介を行ったり、特別支援学級の教員と一緒に参加したりして、生徒が安心して取り組むような工夫を行う。 2学期以降は、11月の鎌倉校外学習の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。</p>
<p>2年</p>	<p>横浜移動教室の取り組みで交流を行った。共同学習では、実態に合わせて体育・国語などの授業に参加することができた。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。国語では、お勧めの書籍の紹介文を書くことができた。</p>	<p>運動会の全員リレーでは、特別支援学級の生徒の前後の走者をバトンパスが上手な生徒にしたり、特別支援学級の教員と一緒に参加したりして、生徒が安心して取り組むような工夫を行う。 2学期以降は、10月の東京校外学習の事後学習の短歌作りを行う。そのため、担当の国語教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。教室では、座席に考慮しながら活動させていく。</p>

<p>3年</p>	<p>修学旅行の取り組みで交流を行った。共同学習では、実態に合わせて体育・国語などの授業に参加することができた。体育では、運動会で交流学級に入り、全員リレーを行うことができた。国語では、お勧めの書籍の紹介文を書くことができた。</p>	<p>10月に行う修学旅行に合わせて、9月中に交流班のメンバーと一緒に理科や技術の授業で交流を深める。そのため、担当の理科と技術の担当教諭と夏期休暇中に、時間割の調整の打ち合わせを行う。理科は「化学変化とイオン」、技術は「プログラミング」で、座席や班員を考慮しながら活動させていく。</p>
-----------	---	---